

自社株報酬 発行価格を「保管」

成長後入社組も利益大

ことができる。採用が難しくなっている人工知能（AI）関連の人材の獲得などを狙って、利用する動きが広がっている。

10日に東証マザーズ市場に上場するMTG（名古屋市中区、松下剛社長）。

トレーニング機器「シックスパッド」で有名なこの会社はSOの活用に積極的で、商品開発などで協力を得ている歌手のマドンナさん、サッカーのクリスティアーノ・ロナルド選手にそれぞれ17億円付与している。

それとは別に信託型SOも17年8月に約50万株分発行した。正式には「時価発行新株予約権信託」と呼ぶ。その時点の企業価値を前提にした低い価格で予約権を発行、信託にプールしておく仕組みだ。

付与することができる。

一方、従来型のSOは発行時に受け取る対象者を決める必要がある。このため、SOを創業時な

SOに詳しい企業価値評価のブルータス・コンサルティングによると、20社超が信託型SOを発行している。

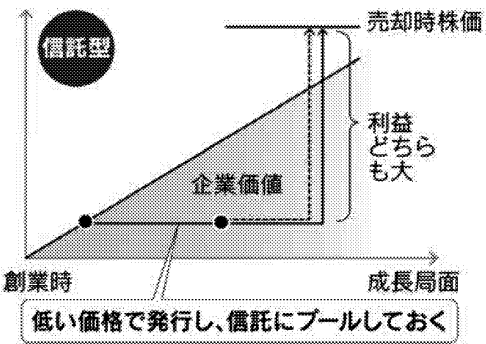
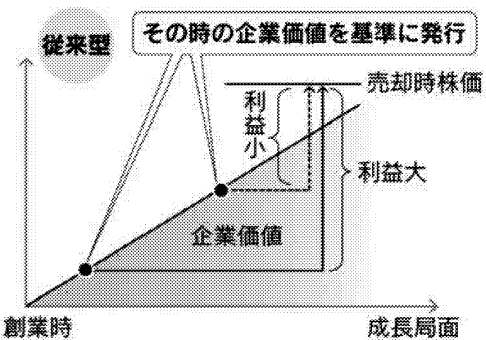
「信託型」と呼ぶ新型のストックオプション（株式購入権||SO）を導入する新興企業が増えている。企業価値を「冷凍保存」するような効果があり、利益規模などが大きくなった後に割当先を決め、貢献度の高い役員・社員に大きく報いる

低めの価格で発行されているので、上場などで企業価値が上昇した後に権利行使して株式を取得し、市場で売却すると大きな利益を得やすい。現時点で入社していない役員・社員でも業績などへの貢献度に応じて後から

に受け取るか、企業価値が大きくなった後に受け取るかで、得られる利益に差が出てしまう。MTGでは信託型SOを導入した理由を「入社した時期による社員間の不公平感をなくしたかったから」と説明する。

AI開発のパークシャテクノロジは17年9月の上場後、株価は大きく上昇した。この結果、上場前に発行した株式数の7%に当たる信託型SOには含み益が発生している。「お宝SO」を誰が受け取るかは今後決めていく。

従来型と信託型ストックオプションの違い



SOは付与時に公正価値を算定し、行使時に人件費として損益計算書に計上する。受け取り手に利益が出れば、企業にはコストが生じ、「打ち出しの小づち」というわけではない。人材獲得などへSOの効果をもっと発揮していくには、株価上昇とコスト増に耐えうる強い体質作りの両立が必要になる。